

森林再生事業について

【高知県梶原町】

四万十川の源流域に位置し、四季折々の変化に富んだ景色の中、独特の文化を育んでいる。県境という不便な立地条件を、プラスへと転換し様々な施策に取り組んでおり、ユニークな施設や制度を活用している。

所 感

高知県の山間部に位置し、森林再生や過疎化対策が重要な課題となっているこの町は、森林面積が90%を占め、高齢化率が48%という背景の中で、森林再生事業や土砂災害対策に取り組んでいる。特に、木材利用を通じた地域経済循環の促進や、環境先進企業との協働が進められている。さらに、建築家隈研吾氏の設計による施設群が町の知名度を高め、観光客の増加に寄与している。一方で、人口減少や技術継承の問題、相続未登記による所有者不明の土地問題などが課題として挙げられている。これらの問題を解決するため、職員の配置や企業との協力、ネットワークの活用が提案されている。視察を通じて得た知識を基に、当町にも効率的な環境整備や施策の実行が求められている。



「特産品を活かした地域おこしについて」 「地場産トマトを活用したオムライス街道事業への取り組み」

【高知県日高村】

農業を主な産業とし、特産品は、朝夕の寒暖差のある気候を活かした、高糖度トマトのブランド「シュガートマト」の生産が盛んに行われている。治水対策にも力を入れている。

所 感

地元産のフルーツトマトを活用し、村の知名度向上を図るオムライス街道事業への取り組みは、飲食店や地域の協力を得て10年間続けられ、多くのメディアで話題となっている。人口減少や過疎化、空き家問題などを背景に、住民の地元愛を育むことも重要視している。未就学児からの参加を促すことで、家族や地域全体の関心を高める効果も得ている。今後は観光協会が主体となり、行政はサポート役に回る予定。町への提言としては、新たな取組に対する長期的な担当制の必要性や、地元愛を育む教育活動の重要性が挙げられ、職員の意向を踏まえた人材育成やノウハウの習得が重要とされている。



いの町中心市街地活性化計画について

【高知県いの町】

歴史的商家の町並みや土佐和紙など素晴らしい観光資源を有するとともに、四季折々の自然が織りなす美しい風景や棚田などの自然も広がっている。

所 感

人口減少や商店街の衰退が進む中、街の活性化を図るために立ち上げられた。この計画は、女性職員を中心に、商工会員や地元コンサルの方などと協力して地域一体となって進められている。具体的な取り組みとして、コミュニティの場の確保や空き店舗の活用、地域資源を活かした回遊性の向上などが挙げられる。これらの取り組みにより、商店の減少を止め、新規開業者の増加や相談者の増加を目指している。

